

製品名: Mat1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13665**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	MNAT1
別名	MNAT1; CAP35; MAT1; RNF66; CDK-activating kinase assembly factor MAT1; CDK7/cyclin-H assembly factor; Cyclin-G1-interacting protein; Menage a trois; RING finger protein 66; RING finger protein MAT1; p35; p36
遺伝子 ID	4331.0
SwissProt ID	P51948
免疫原	抗血清はヒト MAT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

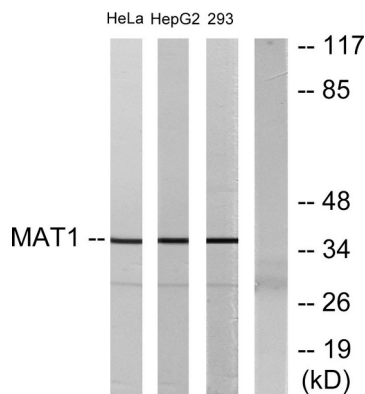
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サイクリン H および CDK7 とともに、CDK 活性化キナーゼ (CAK) 酵素複合体を形成する。この複合体は、いくつかのサイクリン関連キナーゼを活性化するほか、TFIIH と会合して RNA ポリメラーゼ II による転写を活性化する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2011 年 9 月]機能: サイクリン H-CDK7 複合体を安定化し、機能的な CDK 活性化キナーゼ (CAK) 酵素複合体を形成する。CAK は、スレオニンリン酸化によってサイクリン関連キナーゼ CDC2/CDK1、CDK2、CDK4、および CDK6 を活性化する。コア TFIIH 基礎転写因子と複合体を形成した CAK は、その大サブユニット (POLR2A) の反復 C 末端ドメイン (CTD) をセリンリン酸化することで RNA ポリメラーゼ II を活性化し、プロモーターからの離脱と転写産物の伸長を可能にします。細胞周期制御および RNA ポリメラーゼ II による RNA 転写に関与します。類似性: RING 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。類似性: UIM (ユビキチン相互作用モチーフ) 反復を 1 つ含みます。サブユニット: 主に CDK7 およびサイクリン H と会合して CAK 複合体を形成します。CAK はさらにコア TFIIH と会合して TFIIH 基礎転写因子を形成します。組織特異性: 結腸と精巣に最も多く存在します。胸腺、前立腺、卵巣、小腸には中程度に存在します。脾臓と白血球には最も少なく存在します。、

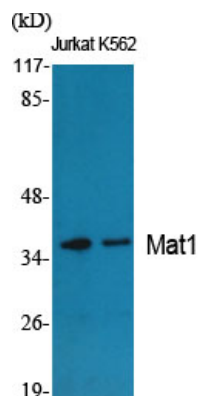
研究分野

ヌクレオチド除去修復;

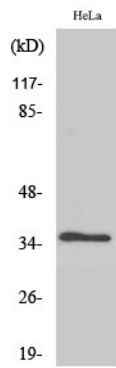
画像データ



HeLa 細胞、HepG2 細胞、および 293 細胞のライセートを MAT1 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Mat1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



Mat1 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析